

「五つのパンと二匹の魚の奇跡」

2022年01月24日

イエスは五つのパンと二匹の魚を取り、天を仰いで祝福し、パンを裂いて、弟子たちに渡しては配らせ、二匹の魚も皆にお分けになった。人々は皆、食べて満腹した。そして、パン切れと魚の残りを集めると、十二の籠いっぱいになった。パンを食べた人は、五千人であった。(マルコ福音書6章41節～44節)

少量のパンと魚で、大勢の人々を満腹させた奇跡は、4つの福音書に、5回も記されている。弟子たちにとって、極めて印象深い奇跡として受け止められたのであろう。

12人の弟子たちは「神の国」の宣教に遣わされ、大きな収穫を得た。彼らは主イエスの所に帰って来て、喜ばしい宣教報告をし合った。主イエスは、「さあ、あなたがただけで、寂しい所へ行き、しばらく休むがよい」とねぎらった。宣教団の周りには、多くの群衆が押し寄せ、食事をする暇もなかったからである。そこで、一同は舟に乗って、自分たちだけで寂しい所に向かった。群衆は、一行が出かけて行くのを見て、方々の町から徒歩で駆け付け、彼らより先に着いていた。人々は、主イエス一行が現した「神の国」の恵みに与りたいと懸命に追いかけて来たのである。主イエスは舟から上がり、大勢の群衆を見て、飼い主のいない羊のような有様を憐れみ、教え始められた。「飼い主のいない羊」とは、守るべき王がなく、心も体も保つことができず、憔悴し切った人々の姿である。あらゆる面での苦悩を負い、地べたを這うような生活を強いられていたガリラヤの民衆に、主イエスは深い憐れみを持って、神の恵みと祝福を告げられた。

時が経って、弟子たちは主イエスに、「ここは寂しい所で、もう時も遅くなりました。人々を解散し、周りの里や村へ行ってめいめいで何か食べる物を買うようにさせてください」と言った。弟子たちは群衆に同情しているようであるが、彼らは疲れ切って、もう休ませてくださいと言いたいのである。すると、主イエスは、「あなたたちの手で食べ物をあげなさい」と言われた。弟子たちは驚いて、「私たちが二百デナリオン(200日分の生活費)ものパンを買いに行って、みんなに食べさせるのですか」、そんなことはできる訳がありませんと応じた。主イエスは、「パンはいくつあるのか。見て来なさい」と言われるので、弟子たちは確かめて、「五つあります。それに魚が二匹です」と答えた。主イエスは弟子たちに、群衆を組に分け、青草の上に座らせるように命じられた。人々は百人、五十人ずつにまとまって腰を下ろした。飼う者のない羊のような混沌とした状態から整然と並ぶ形に変わった。そして、「イエスは五つのパンと二匹の魚を取り、天を仰いで祝福し、パンを裂いて、弟子たちに渡しては配らせ、二匹の魚も皆にお分けになった。人々は皆、食べて満腹した。そして、パン切れと魚の残りを集めると、十二の籠いっぱいになった。パンを食べた人は、五千人であった。」五つのパンと二匹の魚で五千人が食べて満ち足り、余り物まで出る奇跡が起こった。史的に捉えようとするならば、数量は過剰表現であるが、旅の途中にある群衆にはパンと魚を携帯している者がおり、主イエスの「神の国」の説教を聞いて感激し、互いに分かち合って食べ、皆が満腹し、完全を象徴する12籠も余ったと、解釈することもできる。この奇跡は、列王記下4章に、エリシャが20個のパンを百人で食べ、なお残ったという故事を踏襲している。主イエスと12弟子たちの神の国の宣教において、終わりの日に実現する終末論的共同体を先取りした喜びを現した奇跡で、主イエスは終末時の救いを弟子たちと民衆に体験させ、福音の実態を啓示されたのではないか。